

1. 佐倉市の将来都市像

～ 将来都市像の前提 ～

これからの12年間は、序論の人口推計で示したように人口減少・少子高齢化がより顕著になることが想定されます。この人口減少を少しでも緩やかにし、生産年齢人口の維持・増加を図るとともに、一生涯元気に活躍する健康な市民を増やしていくことが、まちの活性化につながるものと考えます。

そのためには、産業経済の活性化を図り、市内で働ける環境をつくること、また、佐倉を知り、訪れてもらう交流人口を増やすこと、そして、市民の結婚・出産・子育ての希望を叶え、いつまでも住み続けたいと思っただけの良好な住環境が必要と考えます。

～ 佐倉市の特徴（魅力・ポテンシャル） ～

- ◆ 平成28年、成田・佐原・銚子とともに「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として日本遺産に認定された城下町の風情を残す歴史的街並みがあります。
- ◆ 市北部の印旛沼周辺には、「草ぶえの丘」や「サンセットヒルズ」、「岩名運動公園」といった自然に囲まれた観光・スポーツ施設があります。
- ◆ フラワーフェスタや、佐倉花火大会、伝統のある秋祭りなど、四季折々のイベントが充実し、市民の皆さんにも楽しんでもらっています。
- ◆ 佐倉市は、幕末から明治期にかけて、多数の芸術家や医学者を輩出しており、現代でも佐倉親善大使に代表される有名人ゆかりの地となっているほか、市民音楽ホールや美術館などを所有する文化・芸術・スポーツが振興する好学進取の風土があります。
- ◆ 本計画の策定にあたり実施した基礎調査の中で、浮かび上がった現在の佐倉市の都市イメージを以下に列挙します。
 - ・ 昼夜間人口比率(83.1%)が千葉県平均(86.8%)と比べても低く、ベッドタウン（住宅都市）という性格が見られます。
 - ・ 持ち家比率(81.3%)が高く、市民の定住意向が強いものと推測できます。
 - ・ アンケートの結果では、本市の長所として歴史・伝統、自然環境や居住環境の水準などが評価される一方で、通勤通学の利便性や産業経済の発展、保健・医療・福祉の水準が評価されていないことが窺えます。

長所（佐倉市で評価できるもの）	短所（佐倉市の評価できないもの）
1位 地域の歴史・伝統	1位 通勤・通学の便
2位 自然環境	2位 地域の経済発展
3位 治安の良さ	3位 買い物の便利さ
4位 買い物の便利さ	4位 保健・医療・福祉の水準
5位 居住環境の水準	5位 市と市民の一体性

▲基礎調査アンケートによる佐倉市の長所 Best 5 と短所 Worst 5

将来都市像は、目標年度である令和13（2031）年度に向けた佐倉市の「目指すべきまちの姿」を示すもので、第5次佐倉市総合計画に掲げる全ての施策の共通目標になります。

本市の特性を活かし、市民が主体となって、さらなるまちの発展を目指すため、佐倉市の今後12年間で達成すべきまちの姿、将来都市像を次のように定めます。

ともに創ろう、 住みやすさ日本一のまち 佐倉市

～ 将来都市像に込めた思い ～

ともに 創ろう	<p>今後のまちづくりにおいて、市民の皆さんが自主的、主体的に参画することが重要です。</p> <p>総合計画は、行政計画であると共に、市民の皆さんの暮らしを豊かにする計画でもあることから、積極的な市政参加を促す意味を込めています。</p>
住み やすさ	<p>首都圏や成田国際空港、幕張新都心へも適度な距離であるという地理上の優位性を持つ佐倉市の住宅都市という特性や、『歴史・自然・文化』といった独自性、都市と農村が共存する地域の多様性などの長所を最大限に生かした住環境の充実はもちろんのこと、市民生活の利便性向上を目指すことによって、「住んで良かった」、「いつまでも住み続けたい」と思っていただけのまちとなるという意味を込めています。</p>
日本一	<p>人口減少・少子高齢化を克服するため、市内外の人々から『選ばれるまち』となることが重要という考えから、日本一のまちを目指すという思いを込めています。</p>

(参考)

これまでの 総合計画における 将来都市像	
第1次佐倉市総合計画 (昭和49～58年度)	印旛地区の核となる豊かな文化教育都市
第2次佐倉市総合計画 (昭和59～平成12年度)	活力ある文化都市
第3次佐倉市総合計画 (平成13～22年度)	歴史、自然、文化のまち
第4次佐倉市総合計画 (平成23～31年度)	歴史、自然、文化のまち ～佐倉への思いをかたちに～